

東北地域等の寒冷地水田作における有機栽培技術体系の開発

(独)農研機構 東北農業研究センター



寒冷地の有機水稻栽培において、有機物資材の特性に応じた施用法、耕耘法、機械除草機やチェーン除草など雑草対策技術、ならびにいもち病、斑点米カメムシおよびイネミズゾウムシの病害虫被害軽減技術を組み合わせることで、高収量な有機水稻栽培体系を実現できます。

1 背景およびねらい

有機水稻栽培の技術確立と普及のため、最大の障害となっている雑草対策技術、稻ワラなどの有機物管理技術および病害虫対策技術を確立するとともに、それらを組み合わせた高収量有機水稻栽培技術を体系化する。

2 寒冷地における有機水稻栽培体系



畦波によるイネミズゾウムシの被害軽減 (福島農総セ)



代掻き同時移植と除草機による除草 (岩手農研セ)

稻ワラ腐熟化を促進する耕耘・圃場管理体系 (B-19)

既発雑草の防除

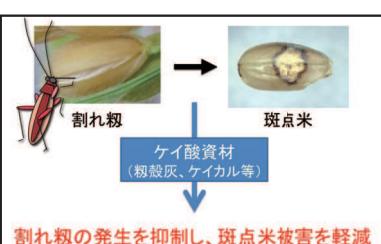
チーン除草 (B-18)

畝立て耕 (B-17)

雑草発生・生育の抑制

高収量有機水稻栽培技術体系

病害虫被害の抑制

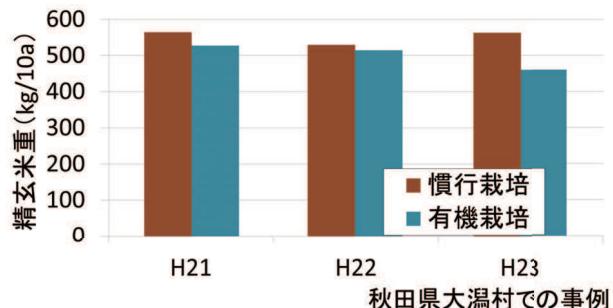


ケイ酸資材による斑点米カメムシ・いもち病の被害軽減 (農研機構)



有機物資材の窒素発現特性の解説と最適施用法 (秋田県立大)

3 現地実証圃における水稻収量



秋田県大潟村での事例